アメリカ滞在記　⑧

ジャックとジョージとモンタナ州

霧野萬地郎

▼１９８０年頃はジャックとニュージャージー州で同じオフィスで働いていた。音響機器の新製品の紹介や展示などの為に、大きく重いステレオやスピーカーボックス等を何機種も持ちながら一緒に全米を巡った。彼はとにかく行動的で、仕事以外には釣りと狩猟を楽しんでいた。彼のオフィスの壁には釣り上げた大きな鱒の剝製が誇らしく飾られていた。週末明けには、「昨日獲った獲物だ」と云って、鴨や鹿の肉などを貰った事もある。ジャックはいつも「厳冬期を除けば、釣りや狩猟にはモンタナは最高だ」と話していた。

モンタナ州はビッグスカイ州と云われる。西にはロッキー山脈が走り、北側はカナダと国境をなして、４番目に面積の大きな州だ。東側は平原やなだらかな丘陵地が多く、空が大きく広がる。モンタナはスペイン語で「山」を意味し、州のニックネームは平地を意味する「大空」で、なんとも奇妙な取り合わせだ。

ジャックとモンタナ州はミズリー川の最上流で釣りを楽しんだ。この川はミシシッピー河の支流で、川幅が30～50ｍ程の浅い渓流だ。季節は9月、そこで、地元の釣り案内人ジョージと3人で3日間の釣り三昧を楽しんだ。夜はジョージの家でもあるトレーラーハウスで寝泊まりした。

州南西部のボーズマン空港から、ジョージの４WDで川沿いの未舗装の径をミズリー川の上流へ遡った。ジョージが予め決めていたポイントに車を停車し、牽引してきたトレーラーに乗せてきたボートを川に浮かべる。そこからゆっくりと川を下りながらフライ(毛鉤)フィッシングを始めた。ガイドのジャックはボートの舳先から、私は艫から投げる。ジョージはボートを操りながら、釣れそうなポイントへ運んでくれる。狙う獲物は50cm程の鱒で、キャッチ＆リリースだ。時には、ボートから降りて渓流に入る。胸までのゴム靴を履いて足が滑らないように竿を振る。ジャックは次々と鱒を釣り上げる。50cm以上の大物ばかりだ。ヒットを捉えるのが実に上手い。彼は日に15匹くらいを竿を撓らせながら、釣り上げる鱒とのファイトを楽しんでいる。

結論から云えば、私は3日間で15匹しか釣れなかった。それも、毛鉤では殆どヒットすることがなかった。事前に練習はしていたのだが、本番では狙ったポイントへ毛鉤が落ちない。毛鉤は軽すぎて釣竿の扱いが難しいのだ。川岸の藪に引っ掛けたりして、その都度、ボートの進行に迷惑をかけた。途中から、ジョージが「ルアーに変えたらどうか」と勧めてくれた。これだと錘があるので、投げやすくなる。それでも浅瀬で、川底と水面の50cm程の僅かな水中に仕掛けを流すリール捌きには手こずった。慣れるに従って、釣果は上がってきたが、どういう訳か鱒ではなくて、20cm程のホワイティングと云うウグイに似た

ジャックと鱒

雑魚だ。本命の鱒はたったの3匹だった。3日間を通じて余りにも少ない釣果に2人は大いに同情してくれた。ジャックの釣った大型の鱒を一匹だけ夕食用に家へ持ち帰り、ジョージがフォイル焼きにした。ビールやワインも添えられ、極上の晩餐だ。ジョージの家はトレーラーで、その中には作業場もあり、毛鉤を作る色々な鳥の羽や色糸などの材料があった。ジャックと私はその家に2泊した。

たっぷりと釣りを楽しんだ最終日は露天の温泉へ行った。この辺りは温泉鉱脈が多く、車で一時間ほど走った所に、30m程四方を木の柵で囲った四角いプールのような施設がある。そのプールの中央を目がけて斜めに高温の間欠泉が噴射される。放物線を描いて空中を飛び、その間の冷却で温度は丁度良い按配になるそうだ。あくまでもプールは後付けなのだ。裸電球の明りの中で15人程の客がビールなどをこの温泉プールに持ち込み、縁に座って楽しんでいた。いかにも野趣溢れた西部の温泉浴といった感じだ。我々も、バッドワーザーを一ダース持ち込みプール縁に座って心地よく疲れた身体を沈め、缶ビール次々と空けた。

プールは混浴だ。真夏には水着を付ける観光客も居るらしいが、この季節は、ほとんどが地元の人達で、彼らはみな素っ裸で、我々もそれに従った。たまたま、水着で入ろうとしたカップルが居たが、素裸のカウボーイがプールから濡れたタオルを投げつけて、ブーイングをした。

薄暗い中で、プールの向こうから私を日本人と見付け因縁を付ける男がいた。「パール・ハーバー」とか云って迫ってくる。酔漢である。ジャックとジョージが私を庇って事なきを得たが、そんなしこりが残っている保守的な些か荒くれた西部なのだ。私は平静を装ったが、二人の友人は大いに気にしてくれた。

ミズリー川の上流

野生動物が入って来ないように木の柵に囲まれているが、柵の外には様々な動物が出没する。暗くて見えないが、鹿の鳴き声ははっきりと何度も聞いた。

この訪問は9月でミズリー川の最上流に近い。そこでは山々に薄く冠雪が見え、釣舟が下るにつれて、見事な黄葉、錦秋の山々を川の左右に見た。丁度、季節を逆行する様に、雪を見て、黄葉を抜けた下流では闌けた青葉も見られて、晩夏の雰囲気が残っていた。

ジャックはニュージャージーでの仕事を辞めた後に、このモンタナで仕事を始めた。今はその仕事も終え、狩猟と釣りを満喫し、今でも生き物の命を奪い続けている。あのジョージも一緒で実に羨ましい限りだ。

モンタナの色なき風の古戦場

錦秋へ毛鉤投げつつ舟下り

足固め瀬に立つ秋の鱒釣ぞ

鹿鳴くや夜空を仰ぐ露天風呂

続く